



# 第72回(2023年度)全国社会科教育学会 全国研究大会プログラム

社会科教育研究は, 教師の成長にいかに寄与し得るか



会期 2023年11月18日(土)~19日(日)

会場 岡山大学教育学部(津島キャンパス)

# 第72回(2023年度)全国社会科教育学会 全国研究大会プログラム

大会テーマ：社会科教育研究は、教師の成長にいかに関与し得るか

1. 主催 全国社会科教育学会
2. 後援 岡山県教育委員会, 岡山市教育委員会  
岡山県小学校教育研究会社会科部会, 岡山県中学校教育研究会社会科部会  
岡山県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会  
岡山市小学校教育研究会社会科部会, 岡山市中学校教育研究会社会科部会  
日本教育大学協会社会科部門
3. 期日 2023年11月18日(土)・19日(日)
4. 場所 岡山大学教育学部(津島キャンパス)
5. 日程

## 第1日 11月18日(土)

	8:30	9:00		12:10	13:30		16:30	17:30
受付	自由研究発表			昼食		シンポジウム <sup>※2</sup>		総会 <sup>※3</sup>
				理事会 <sup>※1</sup>				

※1:理事会は12:20~13:20。 ※2:オンラインで同時無料公開します。 ※3:昨年度研究奨励賞受賞者のスピーチあり。

## 第2日 11月19日(日)

	8:30	9:00		11:30	12:30	13:30	14:00	14:10		16:10
受付	課題研究			昼食	ブックトーク		移動	自由研究発表		
					若手研究者らのラウンドテーブル					

6. 参加費 一般 3,500円(当日支払いの場合4,000円)  
学部生 1,500円(当日支払いの場合2,000円)

## 7. 参加申し込みについて

- 事前参加申し込みは、10月13日(金)をもって締切とさせていただきます。以降のお申し込みは、当日受付にて承ります。
- 大会の詳細については、大会 HP (<https://www.jerass72okayama.jp>) をご覧ください。全国社会科教育学会の HP (<http://jerass.jp>) からリンクしています。

## 8. 会場の施設について

- 教室にはプロジェクターおよび HDMI の接続ケーブルがあります。
- PC やアダプター等は各自でご用意ください。
- プロジェクター投影のチェックは、分科会等の開始前にお済ませください。
- 会場では eduroam をご利用いただけます。

## 9. 発表資料について

- 発表当日に、発表要旨とは別に資料・レジュメ等を配布される方は、各自でご用意ください(70部程度を推奨します。また、大会実行委員会では印刷は致しかねますのでご了承ください)。

## 10. シンポジウムについて

- シンポジウムの発表資料は、大会約1週間前に大会 HP に掲載の予定です。会場での配布は行いませんので、各自で事前にダウンロードをお願いいたします。また、シンポジウム配信用の接続情報も合わせてお知らせします。

## 11. 昼食について

- 1日目、2日目ともに大学生協食堂(マスカットカフェテリア)をご利用いただけます。

## 12. その他

- 悪天候等の緊急のお知らせ・大会情報等は、大会 HP や全国社会科教育学会の HP にて随時発信します。

## 13. 大会事務局

第72回全国社会科教育学会全国研究大会実行委員会

〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1 岡山大学学術研究院教育学域

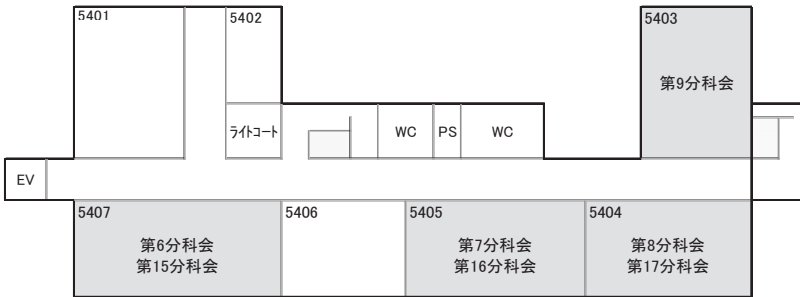
担当: 桑原敏典・山田秀和

E-mail: [jerass72okayama@gmail.com](mailto:jerass72okayama@gmail.com)

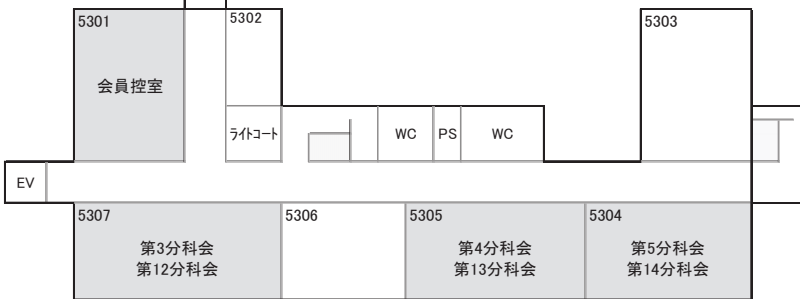
TEL: 086-251-7624 (山田)

# 会場案内

## 講義棟4階



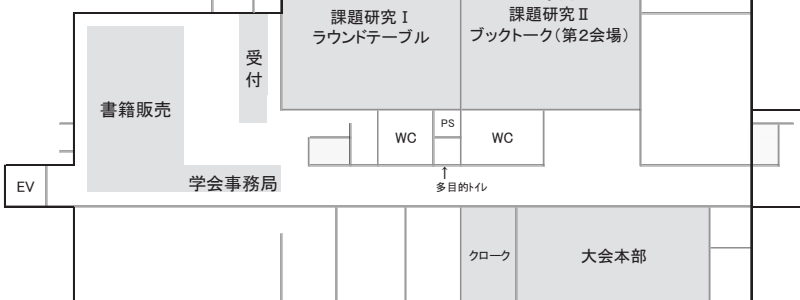
## 講義棟3階



## 講義棟2階



## 講義棟1階



## 第1日: 11月18日(土)

### 自由研究発表: 9:00~12:10

第1分科会	5208 教室
第2分科会	5206 教室
第3分科会	5307 教室
第4分科会	5305 教室
第5分科会	5304 教室
第6分科会	5407 教室
第7分科会	5405 教室
第8分科会	5404 教室
第9分科会	5403 教室

### 理事会: 12:20~13:20

5102 教室

### シンポジウム: 13:30~16:30

5202 教室

### 総会: 16:30~17:30

5202 教室

## 第2日: 11月19日(日)

### 課題研究: 9:00~11:30

課題研究Ⅰ	5101 教室
課題研究Ⅱ	5102 教室
課題研究Ⅲ	5202 教室

### ブックトーク: 12:30~13:30

5102 教室・5202 教室

### ラウンドテーブル: 12:30~14:00

5101 教室

### 自由研究発表: 14:10~16:10

第10分科会	5208 教室
第11分科会	5206 教室
第12分科会	5307 教室
第13分科会	5305 教室
第14分科会	5304 教室
第15分科会	5407 教室
第16分科会	5405 教室
第17分科会	5404 教室

会員控室	5301 教室
大会本部	第2会議室
クローク	第3会議室
書籍販売	1階ロビー
学会事務局	5205 教室
大学生協食堂	マスカットカフェテリア (巻末の地図参照)

第1日: 11月18日(土)

自由研究発表: 9:00~12:10(各発表20分・質疑10分)

※10:30~10:40 休憩

【第1分科会】5208 教室

司会 小谷恵津子(玉川大学)・土肥大次郎(長崎大学)

- (1) 素描 中学校社会科授業研究 第2報—小单元「香川県独立の父—中野武営」の開発を通して—  
日詰裕雄(私塾「招賢塾」)
- (2) 音楽を通して戦争について考えさせる社会科授業の開発  
角南葵乃助(岡山大学大学院)
- (3) 主権者教育における「政党旗揚げゲーム」の開発  
—「政治的創造性」の育成と主体的な政治参加の促進を目指して—  
羽瀬彩乃(神戸大学大学院)・吉永 潤(神戸大学)・徐 小晴(神戸大学大学院)
- (4) 連携支援員の教育理念具体化のプロセスに関する研究—総合的な学習の時間のプログラム開発を事例として—  
波多野雅俊(岡山大学大学院)
- (5) 社会的排除から社会的包摂の実現をめざす法教育授業実践研究  
野寄雄太(北海道教育大学函館校/兵庫教育大学連合大学院)
- (6) 個人的アイデンティティと社会的アイデンティティの涵養を図る小学校社会科授業の開発  
服部 太(大阪青山大学)

【第2分科会】5206 教室

司会 石川照子(三重大学)・二階堂年恵(広島文化学園大学)

- (1) 「望ましい」考え方を学習者が批判的に考察する授業開発—高等学校公民科の平和主義に着目して—  
相田直樹(東京大学大学院)
- (2) 自分の考えを作り出すための効果的なツール・ミンモデルの活用  
湯本育美(岡山大学大学院/備前市立日生中学校)
- (3) 「公共」における法教育の授業開発—法教育による公共的空間の可視化—  
松下千紘(兵庫教育大学大学院)
- (4) 高等学校社会科「公民科」における批判的・制度的学習の再検討—单元「性的指向の多様化」から—  
老沼幸一(東京学芸大学大学院)
- (5) 合理的政策形成能力の育成をめざす高等学校公民科「公共」の授業開発と実践  
—单元『三木市の子育て支援政策を考えよう』を事例に—  
島津貴一(兵庫教育大学大学院)

【第3分科会】5307 教室

司会 井田仁康(筑波大学)・須本良夫(岐阜大学)

- (1) 「資源」概念の形成をめざす小学校社会科の授業開発研究  
—第4学年単元「上島4島の飲料水のヒミツ」を事例に—

為石裕也(広島大学大学院)

- (2) 創造的対話を促す小学校社会科単元開発研究—小学校第四学年「今に生きるジャパンレッド」の開発—

小笠原優貴(岡山市立富山小学校)

- (3) 社会参加できる市民の育成をめざした小学校社会科学習  
—教科横断的な学びの要素を組み込んだ実践を通して—

中田将輝(岡山大学大学院)

- (4) 単元統合型授業による小学校4年生「県内の伝統や文化,先人の働き」大単元化の提案  
—「歴史博物館って何だろう」の授業実践を手がかりに—

加藤達也(静岡市立安東小学校)

- (5) 「創造的認知のモデル」の『理解』理論に基づく授業への援用と授業開発  
～第6学年単元「弁当からミックスプレートへ」を事例として～

原紺政雄(広島市立高南小学校)

- (6) 子どもの主体的な学びを創る社会科授業のあり方—子どもの発想を生かす教材開発を通して—

恒川 徹(東京学芸大学附属竹早小学校)

【第4分科会】5305 教室

司会 岡田了祐(富山大学)・田中 伸(岐阜大学)

- (1) 論争問題を取り扱った中学校社会科における議論学習—公民的分野の単元開発を通して—

木下博斗(愛媛大学大学院)

- (2) 「論争問題」概念に対する教師の理解の多様性—公民科教師らを対象としたインタビュー調査から—

吉田純太郎(広島大学大学院/日本学術振興会特別研究員(DC1))

- (3) 「当事者意識」に着目した論争問題学習の構成—現代社会問題を主軸とした実践を通して—

澤田 拳(岡山大学大学院)

- (4) 高校生は国際的な論争問題学習をどのように意味づけるのか

—新型コロナウイルス感染症対策を取り上げた授業実践を手がかりに—

周 星星(岡山大学大学院)・別木萌果(東京都立小川高等学校)

- (5) 論争問題学習における生成 AI の活用に関する探索的検討

長田健一(就実大学)

【第5分科会】5304 教室

司会 角田将士(立命館大学)・宮本英征(玉川大学)

- (1) 多展望性に基づき資料から歴史を構築する歴史総合の授業開発  
中村大輝(広島大学大学院)
- (2) 自我関与を促す高校世界史の教育内容開発—熊野直樹論文を題材として—  
堤 敏浩(佐賀県立佐賀東高等学校)
- (3) 世界史探究の授業で「イスラーム偏見」をどう打破するか  
—高校世界史Bにおけるイスラーム教およびイスラーム王朝の授業実践から—  
川島啓一(同志社中学校・高等学校/京都教育大学大学院)
- (4) ナショナルヒストリーに包摂されない北海道の歴史学習のありかたを探る  
山元研二(北海道教育大学釧路校)・澤田康介(北海道教育大学釧路校附属義務教育学校後期課程)
- (5) 「困難な歴史」研究において学習者の感情はなぜ、いかに研究されてきたのか  
星 瑞希(北海道教育大学札幌校)
- (6) 歴史認識問題を考える高等学校日本史授業の開発—「慰安婦」を事例に—  
真島聖子(愛知教育大学/筑波大学大学院)  
青山昌平(愛知教育大学附属高等学校/愛知教育大学大学院)

【第6分科会】5407 教室

司会 關 浩和(兵庫大学)・西川京子(福山平成大学)

- (1) NIEに関する研究は、何を、どのように、論じてきたのか—『日本NIE学会誌』投稿論文の分析を通して—  
佐藤健翔(北海道浜中町立霧多布中学校)
- (2) 重松鷹泰の社会科教師論の展開と特質—初期社会科の生活綴方教師の動向をふまえて—  
大野木俊文(鹿児島大学)
- (3) へき地・小規模校の特色をいかした社会科学習のデザイン  
—A 小学校の「学年別指導」と「合同授業」の取組を手がかりに—  
大畑健二(信州大学)
- (4) 「広島大学と広大附属福山の生徒がともに未来の医療を創るプロジェクト」の実施とその教育効果に関する研究  
—課題探究学習と倫理学習の視点から—  
下前弘司(広島大学附属福山中・高等学校)
- (5) 社会科教育の国際協力はどのような意味や価値があるのか  
—カンボジア教育省での研修から3年後の聞き取り調査を通して—  
守谷富士彦(桃山学院教育大学)

【第7分科会】5405 教室

司会 大西慎也(京都ノートルダム女子大学)・田本正一(山口大学)

- (1) 問題解決におけるシステム×デザイン思考を用いた単元構想—社会認識から社会変革に繋げるために—  
出口 樹(筑波大学大学院)・川島一城(筑波大学大学院)
- (2) 社会科教育における感情の位置づけに関する研究  
—小学生を対象にした信念変容を目指したプログラムの実践を通して—  
松原 心(岡山大学大学院)
- (3) 問題解決学習における問題設定の在り方に関する一考察—富山市立堀川小学校を事例にして—  
高橋純一(東京未来大学／兵庫教育大学連合大学院)
- (4) ICCS は、市民性の構造をどのように変化させてきたか—時間軸と空間軸を視点とした変化の分析—  
小栗優貴(京都教育大学)
- (5) 「民主主義」を数理科学の視点から問い直す—今、「アベノマスク」は何処に—  
古家正暢(帝京大学)

【第8分科会】5404 教室

司会 伊藤直之(鳴門教育大学)・鴛原 進(愛媛大学)

- (1) なぜ女性社会科教師は少ないのか—社会科教員免許取得後に教職を選ばなかった4人の語りから—  
正出七瀬(広島大学大学院)
- (2) 地域と連携した教育を実践する高校教師の指導観形成に関する研究  
山田凧紗(岡山大学大学院)
- (3) 中国の教師の法教育観に関する研究—初等「道徳と法治」教師への質的調査を通して—  
賀 延松(岡山大学大学院)
- (4) なぜ担当経験のない科目で子どもが議論する単元を開発できたのか?  
—初任者社会科教師のセルフスタディを通して—  
松本理敬(滋賀県立東大津高等学校)・奥村 尚(民間企業)
- (5) 社会科教師の省察とは何をどうすることか—概念分析と社会科の理念を踏まえた理論的考察を通して—  
奥村 尚(民間企業)
- (6) 社会科評価実践の特質と課題—教師へのアンケート調査から見えてくるもの—  
重信謙太(美咲町立柵原中学校)・井上昌善(愛媛大学)・小笠原優貴(岡山市立富山小学校)  
横川和成(西脇市立西脇南中学校)・岡島春恵(備前市立伊里中学校)



(1) 社会正義志向の社会科教師をどのように育てるか？

—シアトル大学教員養成の講義計画からみえる教師像を中心に—

岡井美咲希(広島大学大学院)

(2) 米国における社会科教師のビリーフに関する研究の動向—Carla L. Peckらの論を手掛かりにして—

史 鵬宇(岡山大学大学院)

(3) 小学校教師は入職後にどのように社会科観を形成するか

—中堅小学校教師と初任期小学校教師の比較を通して—

福田友香(岡山大学大学院)

(4) コロナ禍において教職大学院生や初任者はどのように「歴史教師」として成長していったか

—ナラティブ・アプローチによる二事例の検討—

大木匡尚(東京都立府中高等学校)

(5) 納得解の追究が保障する市民的資質—単元計画・地図作成を通して大学生が獲得したもの—

紙田路子(岡山理科大学)

昼 食: 12:10~13:30

理事会: 12:20~13:20 5102 教室

## 社会科教師教育研究は、教師の成長にいかに関与し得るか

2010年代以降、社会科教育研究において教師を対象とする研究が注目されるようになり、今では一つの領域として地位を確立している。また、教師自身が研究を通して自らの力量形成に取り組むなど、教師教育研究の主体は学校現場にも広がっている。一方、教育現場の課題は多様化、複雑化し、それらに対応できる高度な専門性をもった教員を育てることは、教員養成・研修にとって喫緊の課題となっている。本シンポジウムでは、まず、これまでの社会科教師教育研究が、教師の成長を促すことにどのように役立ってきたか、そして、学校現場が直面している様々な課題に対応できる教員を育てることに寄与してきたかを検証したい。そのうえで、社会科授業改善や教師の社会科授業力の向上に資するこれからの社会科教師教育研究はどうあるべきかを、参加者の皆様とともに考えたい。

シンポジウムの論点は、以下の三点となると考えている。

- (1) 時代や社会が求める社会科授業ができる教員には、どのような資質・能力が期待されているのか。多様な児童・生徒の成長を支援できる教員には、何が必要か。そのための養成・研修はどのようなものか。
- (2) 現在の社会科教育における教師教育研究の特質は何か。教育現場の教員の養成・採用・研修の改善にどのような示唆を与えているか。
- (3) 児童・生徒とともに成長できる教師の支援という観点から、これからの社会科教師教育研究には何が求められるのか。社会科教師教育研究の課題は何か。

多様な教育課題に対応できるということの他、学習指導要領の改訂に伴う新たな教育課題への対応など、教員に求められる資質・能力は社会や時代の変化に伴って大きく変わり得る。第一の論点は、教員養成や研修のシステムは、それに見合ったものになっているのかということである。

第二の論点は、教師教育研究の成果は教師の実感や実態に合っているのか、それは、優れた資質・能力を持つ教員の養成に貢献しているのかということである。

そして、最終的には、第三の論点として示したように、上記の二つの論点をふまえた現状把握に基づいて、社会科教師教育研究のこれからの課題は何か、どのような方向を目指すべきかを議論したい。

- (1) 「社会科教師」とは何をする人なのか

—「専門性／専門職性」の視点から問い直す—

川口広美(広島大学)

- (2) 子どもの素朴知の変容を促す社会科授業づくりの支援方法

—教師のゲートキーピングをよりよく支援するために—

藤瀬泰司(熊本大学)

- (3) これからの時代の社会科教師研究の意義と可能性

—自律した社会科教師を支援するために—

村井大介(静岡大学)

- (4) 教員集団による aim トークの実践とその効果

—兵庫県西脇市の研修を事例に—

横川和成(西脇市立西脇南中学校)

指定討論者

磯山恭子(国立教育政策研究所)

戸田善治(千葉大学)

コーディネーター

大澤克美(東京学芸大学)

桑原敏典(岡山大学)



第2日: 11月19日(日)

課題研究 I : 9:00~11:30 5101 教室

## 課題研究 I 社会科教育の規範的・原理的研究は、教師の成長にいかに関与し得るか

社会科教育における教師教育研究については、米国や英国の研究が先行していたという事実は否定できない。21世紀になり、欧米の研究成果を学んだ若手研究者によって社会科教育における教師教育研究の扉が開かれた。さらに、米国の教育学研究者であるスティーブン・ソントンの“Teaching social studies that matters: Curriculum for active learning”(邦題『教師のゲートキーピング』春風社、2012年)の翻訳・出版は、教師のゲートキーパーとしての役割を提案し、その理論的基盤を形成した。では、社会科教育研究において、社会科教師の資質・能力や役割は、どのように明らかにされてきたのか。これまでの研究によって、社会科教師の成長を捉える理論的枠組みは構築されているのか。

本課題研究では、北米や日本における規範的・原理的研究とそれらの研究成果の活用について3名の発表者からの報告を予定している。そして指定討論者による論点整理をふまえたうえで上に挙げた課題を検討していきたい。

(1) なぜ社会認識教育学会の規範的・原理的研究は広く浸透しなかったのか？

—多元主義的な北米式規範的・原理的研究との比較考察を通して—

渡部竜也(東京学芸大学)

(2) 教師の成長における規範的・原理的研究の役割

—カナダの場合—

坪田益美(東北学院大学)

(3) 教職大学院における規範的・原理的研究の活用

—社会科教育の本質を議論することの意義と課題—

後藤賢次郎(山梨大学)

指定討論者

吉村功太郎(宮崎大学)

コーディネーター

田口紘子(日本体育大学)

中原朋生(環太平洋大学)

## 課題研究Ⅱ 社会科教育の開発的・実践的研究は、教師の成長にいかに関与し得るか

新たな授業構成理論や教授理論を、具体的な単元や授業の開発・実践を通して提案する研究は、日本の社会科教育研究を長く牽引してきた。それが事実であることに疑いの余地はないものの、実際に、研究者の提示する理論が、教育現場の社会科授業の改善に関与してきたかどうかについては、議論の余地がある。理論と実践の乖離は、我が国の社会科教育研究において長く提起されてきた問題である。また、近年は、社会科教育の研究者に対して、複雑化し難解となった学習指導要領や教科書の解説を期待する声も強くなっている。学習指導要領や教科書を分かり易く示すことが、実際に教師の成長を支援することにつながるのだろうか。一方、教師の中には、開発的・実践的研究に取り組み、自ら力量を高めている者も多い。先に述べた理論の提示も、自ら研究に取り組む教師によってなされることが少なくない。ただし、それがごく一部の教師に限られていることも事実である。

以上のことをふまえ、課題研究Ⅱでは、高等学校の若手教員、中学校の管理職、学校現場の教員経験がある大学教員といった多様な立場の方々を発表者として招聘し、①これまで取り組んできた開発的・実践的研究の成果とは。②①を実現することができた理由や条件とは何か。③教師の成長に必要なことは何か。という視点をふまえて報告をしていただく。さらに、指定討論者として同じく学校現場の教員経験がある大学教員に議論を整理していただき本課題研究の論点を明確化する。

そのうえで、参加者とともに教師の成長を促すための開発的・実践的研究の在り方について議論を深めたいと考えている。なお、当日は、参加者同士の意見交換を行うことを予定している。開発的・実践的研究に取り組んでいる参加者同士のネットワークを構築していただきたい。

### (1) 自身の教育観を見つめなおす授業開発・実践研究

—「生理用品の歴史」の授業開発・実践研究の省察から—

別木萌果(東京都立小川高等学校)

### (2) 他者との関わりをとおした省察による教師の成長

—消費者としての主体性を高める授業開発に至るまで—

王子明紀(兵庫県三田市立狭間中学校)

### (3) ゲートキーパーへと社会科教師が成長するために必要なことは何か

—外部人材を活用した授業開発のプロセスに着目して—

井上昌善(愛媛大学)

指定討論者

梅田比奈子(玉川大学)

コーディネーター

井上昌善(愛媛大学)

中平一義(上越教育大学)

### 課題研究Ⅲ 社会科教育の実証的・経験的研究は、教師の成長にいかに関与し得るか

近年の社会科教育における実証的・経験的研究は、これまでは研究上あまり関心を持たれておらず、常識的・感覚的に捉えられがちであった社会科教師の実態を科学的に解明している。その成果によって、これまでの伝統的な教師観は覆されてきつつある。しかし、そうして明らかになった教師の実態が、教育現場の実態とズレているのではないかという疑問も提示されている。例えば、教師のクリエイティブな授業開発の思考が明らかにされる一方で、現場の授業は従来通り一方的に知識を伝達する講義スタイルで行われているというような事実もある。実証的・経験的研究によって教師に関わる事実が解明されることが、教育改善を実際に促しているのだろうか。

また、児童や生徒の実態や成長を明らかにしようとする実証的・経験的研究についても、近年は方法論が確立し、精度も増してきた。このような研究は研究者だけではなく、教師自身によってもなされるようになったが、この研究に携わることは、教師自身にどのような影響をもたらすのだろうか。

本課題研究では、これらの問いを探究するために、社会科教育における実証的・経験的研究に携わってきた6名の研究者・実践者に登壇をお願いした。これらの登壇者は、教師や学習者(子ども)、教師教育者を対象とした実証的・経験的研究を推進している。テーマに応じて2名ずつのペアとなっただき、①なぜそのテーマを選び、研究をしようと思ったのか(動機・背景)、②どのような研究上の問いを立て、その問いをどのように解明しようとしているのか(対象、研究方法)、③その研究を通して、何に貢献したいのか/何を変革したいのか(目的、目標)、の3点を中心に発表いただく。

社会科教育における実証的・経験的研究は、誰に向けた研究なのか、何の改善や変革に関与しうる研究なのか。フロアの方々の議論を通して検討していきたい。

(1) 社会科教師の専門性やヒューマン性に着目した実証的・経験的研究の可能性と課題

岡島春恵(備前市立伊里中学校)・岩崎圭祐(鹿児島大学)

(2) 社会科学習者の思考やエージェンシーに着目した実証的・経験的研究の可能性と課題

宅島大亮(大阪産業大学)・星 瑞希(北海道教育大学札幌校)

(3) 社会科教師教育者の葛藤やアイデンティティに着目した実証的・経験的研究の可能性と課題

山内敏男(兵庫教育大学)・栗谷好子(群馬大学)

指定討論者

石川照子(三重大学)

コーディネーター

大坂 遊(周南公立大学)

堀田 諭(埼玉学園大学)

昼 食: 11:30~12:30

ブックトーク(第1会場): 12:30~13:30(各30分) 5202 教室

- (1) トマス・ミスコ, ジャン・デ・グルーフ編, 渡部竜也・草原和博・桑原敏典・金鍾成・中島蓮・星瑞希・鈺悠介・守谷富士彦訳『世界の論争問題教育—閉め出された領域をどう考えるか—』東信堂, 2023年出版予定  
渡部竜也(東京学芸大学)・草原和博(広島大学)  
金 鍾成(広島大学)・桑原敏典(岡山大学)
- (2) 渡部竜也『論争問題を立憲主義的に議論しよう—法理学アプローチ—』東信堂, 2024年出版予定  
渡部竜也(東京学芸大学)

ブックトーク(第2会場): 12:30~13:30(各30分) 5102 教室

- (1) 社会科の評価について考える会編『社会系教科の評価をめぐる理論と実践』風間書房, 2023年  
社会科の評価について考える会
- (2) 橋本康弘・中本和彦編著『つまずきから授業を変える! 高校地理「PDCA」授業&評価プラン』明治図書, 2022年  
橋本康弘・宮本英征編著『つまずきから授業を変える! 高校歴史「PDCA」授業&評価プラン』明治図書, 2022年  
橋本康弘編著『つまずきから授業を変える! 高校公民「PDCA」授業&評価プラン』明治図書, 2022年  
橋本康弘(福井大学)・中本和彦(龍谷大学)・宮本英征(玉川大学)

若手研究者らのラウンドテーブル：12:30～14:00 5101 教室

司会 紙田路子(岡山理科大学)・神野幸隆(香川大学)  
\*グループのファシリテーターも兼任

大会にご参加の方は、各テーブルでの議論の様子をぜひご覧ください。

【Aテーブル】ファシリテーター 長田健一(就実大学)・横川和成(西脇市立西脇南中学校)

植原督詞(伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校)	賀 延松(岡山大学大学院)
行壽浩司(福井県美浜町立美浜中学校／兵庫教育大学連合大学院)	田中峻斗(広島大学大学院)
宮本あゆは(岡山大学大学院)	

【Bテーブル】ファシリテーター 井上昌善(愛媛大学)・阪上弘彬(千葉大学)

星 瑞希(北海道教育大学)	松原 心(岡山大学大学院)
山村向志(千葉県立姉崎高等学校)	湯本育美(岡山大学大学院／備前市立日生中学校)
劉 旭(広島大学大学院)	

【Cテーブル】ファシリテーター 神野幸隆(香川大学)・田本正一(山口大学)

清川美空(岡山大学大学院)	周 星星(岡山大学大学院)
鈺 悠介(国立特別支援教育総合研究所／広島大学)	村上遥大(広島大学大学院)
両角遼平(広島大学大学院)	

【Dテーブル】ファシリテーター 紙田路子(岡山理科大学)・土肥大次郎(長崎大学)

大塚雅之(大阪府立三国丘高等学校)	玉井慎也(北海道教育大学釧路校)
光岡歩美(岡山大学大学院)	山田凧紗(岡山大学大学院)
吉田純太郎(広島大学大学院／日本学術振興会特別研究員(DCI))	



【Eテーブル】 ファシリテーター 栗谷好子(群馬大学)・山内敏男(兵庫教育大学)

史 鵬宇(岡山大学大学院)	正出七瀬(広島大学大学院)
張 傳博(筑波大学大学院)	波多野雅俊(岡山大学大学院)
福田友香(岡山大学大学院)	

【Fテーブル】 ファシリテーター 西川京子(福山平成大学)・呂 光暁(仙台白百合女子大学)

大岡慎治(広島大学大学院)	大野木俊文(鹿児島大学)
澤田 拳(岡山大学大学院)	為石裕也(広島大学大学院)
筒井 佑(岡山大学大学院)	

自由研究発表：14:10~16:10(各発表20分・質疑10分)

【第10分科会】5208教室

司会 新谷和幸(長崎大学)

- (1)なぜ生徒にとって熟議に参加することは難しいのか?—動機づけを視点としたインタビュー調査を踏まえて—  
野瀬 輝(広島大学大学院)
- (2)持続可能な社会の形成者育成を目指した民法学習のプログラム開発としての法教育—消費者問題を素材として—  
宮本あゆは(岡山大学大学院)
- (3)法理学的認識枠を活用した中学校社会科授業研究  
行壽浩司(福井県美浜町立美浜中学校/兵庫教育大学連合大学院)
- (4)議論学習への参加格差とその要因—E. Cohenの「地位の問題(status problem)」を手がかりに—  
植原督詞(伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校)

【第11分科会】5206教室

司会 胤森裕暢(広島経済大学)

- (1)意思決定力のある国際市民の育成をめざす社会科授業開発—法や政治制度とのかかわりに着目して—  
森 清成(広島大学附属三原小学校)・柳生大輔(広島大学附属三原中学校)  
渡邊大貴(広島大学附属三原小学校)・永田忠道(広島大学)・渡邊 巧(広島大学)
- (2)公民科における社会正義に着目した多文化教育プログラムの開発  
—アフーマティブ・アクションを事例とした教材開発を通して—  
清川美空(岡山大学大学院)
- (3)主権者教育のあり方の基礎研究(2)—「立候補するということ」を事例にして—  
橋本康弘(福井大学)
- (4)価値判断力や意思決定力を育成する社会科授業の開発  
—5年生「自然とともに生きる—自然を守る規制について考える—」—  
梅澤真一(植草学園大学)

【第12分科会】5307教室

司会 釜本健司(新潟大学)

(1) 社会科教育は、アイヌ民族教育にどんな貢献ができるのか

丹松美代志(おおさか学びの会/元大阪教育大学)

(2) 歴史正義の実現をめざす歴史単元構成原理

—TC<sup>2</sup>による“Canada’s First National Internment Operations, 1914-1920”の場合—

村上遥大(広島大学大学院)

(3) オーストラリア社会科カリキュラム論争—文化的多様性の尊重と国民統合を視点に—

両角遼平(広島大学大学院)

(4) なぜ社会科教育は認識的不正義の是正をめざすべきか

—社会科学科, 社会形成科, 社会正義志向の社会科に共通する課題—

田中峻斗(広島大学大学院)

【第13分科会】5305教室

司会 溝口和宏(鹿児島大学)

(1) 社会形成をめざした小学校社会科歴史分野における文化学習—メタヒストリー学習に着目して—

小紫真拓(兵庫教育大学大学院)

(2) 歴史論争問題学習における倫理的判断の指導と評価

—過去の行為の「正しさ」はいかに判断(評価)されるべきか—

山村向志(千葉県立姉崎高等学校)・植原督詞(伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校)

(3) オーセンティックな学びを取り入れた中学校社会科歴史的分野の学習設計に関する一考察

梶谷真弘(大阪府茨木市立南中学校)

(4) 歴史と理論を統合した実用主義歴史学習の開発

—世界史探究・小単元「民主主義国家リーダーの政治指導」を事例として—

松村 淳(岩国市立御庄小学校)

【第14分科会】5304教室

司会 桐谷正信(埼玉大学)

- (1) 戦後歴史教育における「歴史的思考力」—1940-50年代の世界史における議論—  
白井壱博(名古屋中学校・高等学校)
- (2) 社会科歴史教育における「力強い学門の知」に関する一考察—歴史研究と教材開発をめぐって—  
鈴木正行(香川大学)
- (3) 系統的な通史授業と現代のテーマ学習を授業ごとに両立させるAIフォロー型カリキュラムの提案  
—歴史の論述から関連ニュースを検索できるシステムを用いて—  
池尻良平(東京大学)・澄川靖信(拓殖大学)・吉川 遼(愛知淑徳大学)
- (4) 「困難な歴史(Difficult History)」をどう教えるか  
—Julia RoseのCommemorative Museum Pedagogyからの示唆—  
金 鍾成(広島大学)・迫 有香(広島大学大学院)・劉 旭(広島大学大学院)  
大岡慎治(広島大学大学院)・後藤伊吹(広島大学大学院)・露口幸将(広島大学大学院)  
溝口雄介(広島大学大学院)・和田尚士(広島大学大学院)

【第15分科会】5407教室

司会 峯 明秀(大阪教育大学)

- (1) 「勉強が苦手な子」のシビック・エンパワーメントのための真正の評価論  
—David Sherrinの歴史教育改革案を手がかりとして—  
堀田 諭(埼玉学園大学)・渡部竜也(東京学芸大学)
- (2) 「社会科」における小中高の継続する学びを、児童・生徒のどのような姿から見ることができるか  
～12年間の子どもの学びの変容から明らかにする～  
神内千波(大阪教育大学附属高等学校池田校舎)・田中誠也(大阪教育大学附属池田中学校)  
西邑悠佑(大阪教育大学附属池田中学校)・高山翔平(大阪教育大学附属池田小学校)
- (3) 地域の人材と連携した授業展開と児童等の変容  
—小学校第3学年「江戸川区の移り変わり」を中心に—  
柳沼麻美(江戸川区立大杉第二小学校)
- (4) 北海道教育大学釧路校・社会科教育学ゼミにおける教師教育者としての実践と省察  
—新任大学教員の私は、教員養成と研究者養成をいかに両立しようと試みているか?—  
玉井慎也(北海道教育大学釧路校)

【第16分科会】5405教室

司会 中本和彦(龍谷大学)

(1) 歴史を事例とした議会政治の探究—中学校社会科三分野の見直しを視野に—

弘田真基(京都市立桃山中学校)

(2) モビリティ・マネジメント教育を取り入れた地域の在り方の構想学習

—「京都市都市計画局歩くまち京都推進室」との協働を事例として—

弘田真基(京都市立桃山中学校)・上畑直久(京都市立西京高等学校附属中学校)

亀井隆次(京都市立栗陵中学校)・水山光春(京都橘大学)

(3) 地理総合における内省性を重視した批判的思考力を育成する授業の開発と検証

—単元「人口問題」を事例として—

大木康平(広島大学大学院)

(4) 高等学校地理歴史科必修科目「地理総合」のミニマルエッセンシャルズを考える

—通信制「学習書」執筆者の観点から—

佐藤 亨(東京都豊島区立教育センター)・坂口克彦(東京都立墨田川高等学校)

【第17分科会】5404教室

司会 小田泰司(福岡教育大学)

(1) 社会科における「方法知」の考察—「この子」の学び方に着目して—

宗實直樹(関西学院初等部)

(2) 幼少期における市民空間へのエンゲージメント(Engagement)の調査方法の探究

—J. Hauver が採用する研究方法に着目して—

小野創太(広島大学)・鉦 悠介(国立特別支援教育総合研究所/広島大学)

迫 有香(広島大学大学院)・劉 旭(広島大学大学院)・後藤伊吹(広島大学大学院)

田中峻斗(広島大学大学院)・岡井美咲希(広島大学大学院)

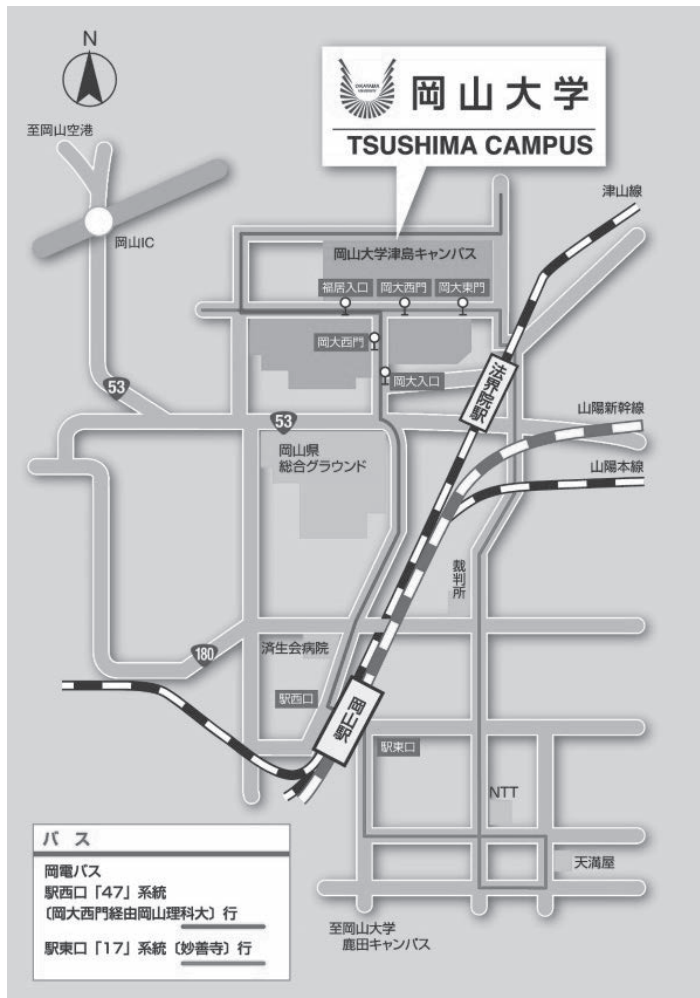
(3) 授業における「雰囲気」と学習者の学びに対する意味づけの関連性—教室と社会をつなぐ「雰囲気」を問う—

大山正博(武庫川女子大学)・新 友一郎(兵庫県立加古川東高等学校)

(4) 教室をミニ・パブリックスにする—「熟議のためのナッジ」としての社会科授業の条件—

大脇和志(お茶の水女子大学)

## 岡山大学へのアクセス



### 【JRを利用】

- ・岡山駅下車…西口広場 2Fタクシー乗り場からタクシーで約7分
- ・津山線「法界院」駅下車…徒歩約10分

### 【JR岡山駅から岡電バスを利用】

- ・岡山駅西口バスターミナル 22 番乗り場から【47】系統「岡山理科大学」行きに乘車,「岡大西門」(約7分)で下車。徒歩にて会場へ。  
(会場の最寄り「岡大東門」ですが,キャンパス外周を経由するため,行きは時間がかかります。行きは「岡大西門」で下車,帰りは「岡大東門」で乗車されることをおすすめします。)
- ・岡山駅東口バスターミナル 13 番乗り場から【17】【67】系統「妙善寺」行きに乘車,「岡大東門」で下車。  
(市街地を巡回経由するため時間がかかります。)
- ・岡山駅東口バスターミナル 7 番乗り場から【16】系統「津高台団地・半田山ハイツ」行き,【26】系統「岡山医療センター国立病院」行き,【36】系統「辛香口」行き,【86】系統「運転免許センター」行きに乘車,「岡山大学筋」で下車→「岡大東門」まで徒歩17分(1.3km)。

### 【岡山空港(航空機)から空港リムジンバスを利用】

- ・岡山空港 2 番乗り場から「岡山駅西口」行きに乘車,「岡山大学筋」で下車,徒歩約17分(1.3km)。  
(ノンストップ便は「岡山駅」で下車,岡山駅からの各種交通機関を利用。)

バスの時刻表は,以下より最新の情報をご確認ください。

・岡電バス <https://okayama-kido.co.jp/bus/> ・空港リムジンバス <https://www.okayama-airport.org/access/bus>

## 津島キャンパス(北側)地図

